

## 看護部 研究業績 (2017年)

### 誌上発表・著書

- 1 ① 岡山 幸子、松田 良信  
② 若手医師のための呼吸器診療スキルアップー苦手意識を克服しよう  
③ 呼吸器ジャーナル  
④ 第65巻第2号  
⑤ 2017  
⑥ P318～325  
⑦ 【要旨】終末期医療・緩和ケアにおいて、疾患の治療とともに、症状緩和も重要である。患者・家族とのコミュニケーションスキルが必要であり、がん告知、抗がん医療の終了、予後告知について述べている。
  
- 2 ① 岡山 幸子、松田 良信  
② 症例を時間で切って深く知る！  
③ がん緩和医療  
④ 第1版  
⑤ 2017  
⑥ P229～234  
⑦ 【要旨】架空症例において、「病状が日単位から時間単位になった時」に、死の過程を家族にわかりやすい言葉で説明できるように、症例のアセスメント、対処方法、ケアについて述べている
  
- 3 ① 岡山 幸子  
② 睡眠の援助  
③ 経過別成人看護学④ 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア  
④ 第1版1刷発行  
⑤ 2017  
⑥ P136～139  
⑦ 【要旨】エンド・オブ・ライフにある患者の睡眠の援助の意義と目的、アセスメントの視点、援助の実際、工夫点について述べている
  
- 4 ① 岡山 幸子  
② 臨死期のがん患者への看護(緩和ケア病棟での看取り)

③ 経過別成人看護学④ 終末期看護:エンド・オブ・ライフ・ケア

④ 第1版1刷

⑤ 2017

⑥ P377~385

⑦ 【要旨】 事例で学ぶ終末期看護の実践について述べており「臨死期のがん患者への看護(緩和ケア病棟での看取り)の仮想症例を通して、アセスメント、看護目標、看護の実際について週~日単位、時間単位、死亡時までのケアについて述べている。

5 ① 森田 真理子

② 01・02 輸液療法

③ ナース3年目からのスキルアップ! 消化器看護ケア事典

④ 初版

⑤ 2017

⑥ P168~174

【要旨】 体内の水分量を増やすためには、点滴の浸透圧と血漿の浸透圧を同じにしないとけない。そのため、血漿とほぼ同じであるNa<sup>+</sup>Cl<sup>-</sup>が入った0.9%生理食塩液が作られた。

⑦ 生理食塩液中にはNa<sup>+</sup>とCl<sup>-</sup>しか入っていないため大量輸液すると、高ナトリウム血症、高Cl血症やさまざまな電解質のバランスが破綻する。高Cl血症は代謝性アシドーシスを引き起こす。そして血液中にはpHを一定に保つためにも重炭酸イオンが含まれているが、生理食塩液には含まれていないため、代謝性アシドーシスは進行する。

このような事象を改善するためにより生理的な点滴剤として開発されたのがリンゲル液である。

6 ① 森田 真理子

② 01・02 輸血療法

③ ナース3年目からのスキルアップ! 消化器看護ケア事典

④ 初版

⑤ 2017

⑥ P175~179

【要旨】 <低カルシウム血症(クエン酸中毒)>

血液を保存するためには凝固しないようにする必要がある。そのためにMAP液やクエン酸を添加する事で凝固を防いでいる。クエン酸は血液凝固に必要なカルシウムをとらえる事で凝固を防ぐ。大量、急速に輸血すると一時的に低カルシウム血症をきたす事がある。

⑦ <代謝性アシドーシス/アルカローシス>

保存期間中は嫌気性代謝による乳酸の増加によって血液のpHは低下している。大量輸血の際には代謝性アシドーシスが起る事がある。しかしクエン酸は重炭酸を生じる事からアシドーシスが補正され、結果として低カリウム血症を伴った代謝性アシドーシスの方が出現頻度が高い。

- 7 ① 森田 真理子  
② 26周術期の栄養管理  
③ ナース3年目からのスキルアップ！ 消化器看護ケア事典  
④ 初版  
⑤ 2017  
⑥ P242～249

【要旨】 侵襲下では、アミノ酸からの糖新生と脂肪組織からの脂肪酸放出による内因性エネルギーが供給される。したがってこの内因性エネルギーと投与される栄養(外因性エネルギー)の総和が総供給エネルギー量となる。

- ⑦ 侵襲が強ければ強いほど、内因性エネルギー供給は大きくなる。理論的には、内因性エネルギー供給(異化)と外因性エネルギー供給(栄養療法)との合計がちょうどREEになれば良いはずだが、内因性エネルギーがどのくらいもたらされるのかを把握する方法は現時点ではない。栄養をどんどん増やそうという旧来の考えから、もともと身体に備わっている内因性エネルギーという供給システムを考慮して栄養をあげすぎないようにしよう、という考えにシフトしつつある。

- 8 ① 森田 真理子  
② 人工呼吸ケアで必ずおさえない「今はこうする」がわかっている ⑤鎮痛・鎮静  
③ 素敵ナースの練習帳  
④ 初版第一版  
⑤ 2017  
⑥ P45～49

【要旨】 人工呼吸器管理の鎮静は「重症患者をうまく眠らせるか」ではなく「重症患者の痛みをコントロールしいかに浅い鎮静にもっていく

- ⑦ か」でなければならない。大切なのは、医療者側の思い込みではなく、患者自身の訴えである。そのためには患者と密接にコミュニケーションをとり、痛みや不安をきめ細かくアセスメントする必要があり、この事が「患者中心」という考え方につながる。

学会(特別・教育講演、シンポジウムを含む)

- 1 ① 吉川 善人、松田 良信、岡山 幸子、日吉 理恵、二村 珠里、伊藤 伸哉  
② 「悪性胸膜中皮腫により緩和ケア病棟で看取った11例の報告～急増する悪性疾患としての特徴～」  
③ ポスター発表  
④ 第24回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会in久留米  
⑤ 福岡  
⑥ 2017.02.04  
⑦

- 2 ① 岡山 幸子、日吉 理恵、土井 美奈子、松田 良信、吉川 善人  
② 「緩和ケア病棟における退院支援加算1の算定の工夫」  
③ ポスター発表  
④ 第24回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会in久留米  
⑤ 福岡  
⑥ 2017.02.04  
⑦ 【要旨】 緩和ケア病棟でも退院支援加算1が算定可能となった。当院緩和ケア病棟において、退院支援計画書を作成した後、MSWと密なコミュニケーションを図り、いつでも患者の退院の希望に沿えるように関わっている
- 3 ① 藤森 令子、吉田 こずえ、坂口 亜衣子、門田 弘子  
② 「外来化学療法オリエンテーション問診票導入の取り組みの効果」  
③ 口演発表  
④ 第31回日本がん看護学会学術集会  
⑤ 高知  
⑥ 2017.02.04  
⑦ 【要旨】外来化学療法オリエンテーションに問診票を導入、その効果を明らかにする目的で、導入2ヶ月後に専任看護師3名を対象に半構成的面接を実施、質的帰納的に分析。問診票導入により心理・社会面の情報を効率的に収集でき有用と示唆された。継続したセルフケア指導を行なうには、記録の工夫も必要との課題が見出された。
- 4 ① 吉田 こずえ、岡山 幸子、野田 洋子、川口 桃子、水田 弘子、村田 弘美、他施設3名  
② 「看看連携を考える会」から見えたがん患者の意思決定支援の困難さと行動変化  
③ 示説発表  
④ 第31回日本がん看護学会学術集会  
⑤ 高知  
⑥ 2017.02.05  
⑦ 【要旨】病院看護師と訪問看護師が退院支援における連携上、最も困難としていたがん患者の意思決定支援、課題、行動の変化を明らかにする目的で2ヶ月に1回アクションリサーチを実施。参加者31名。繰り返しアクションリサーチを行なうことで困難さが共有でき、個人的な行動変容を可能とし、病棟から訪問看護師につなぐ役割の認識、決断に至らない気持ちの変化を共有することの認識を持つことができた。
- 5 ① 呑村 和美、市村 理恵子、高橋 一美、有山 紀子、松本 裕子、小林 睦、田中 弘教、阿部 孝  
② 「組織を挙げての安全対策への取り組みについて～当院における医療安全対策室と内視鏡センターへの関わり～」  
③ 口演発表

- ④ 第68回近畿消化器内視鏡技師会
- ⑤ 大阪
- ⑥ 2017.02.12
- ⑦

- 6 ① 満田 幸士、桑原 正篤、辻 二三子、中田 徹朗、奥田 輔、木村 俊大、石津 智司
- ② 「災害時初動対応研修を通しての当院の課題」
- ③ ポスター発表
- ④ 第22回日本集団災害医学会学術集会
- ⑤ 愛知
- ⑥ 2017.02.15

⑦ 【要旨】当院DMAT隊員主催の「院内DMAT研修」の概要についての報告及び、研修を通しての「入院病棟における災害時の初動対応の課題」について、アンケートを用いた分析を行った。その結果、自部署での災害訓練は各部署に委ねられていること、災害マニュアルが浸透していないことが課題として明らかになった。課題に対して、研修受講者が「①マニュアルを理解できる②主体的に部署訓練を実行できる③部署訓練を評価できる」ためのシステム作りが必要であると考察した。

- 7 ① 中橋 恵子、岡田 有香、橋口 具世、射延 菜穂美、中川 史絵、川野 知子、尾関 美貴、中筋 幸司、桑原 正篤
- ② 「当院NST活動報告～今後の課題～」
- ③ ポスター発表
- ④ 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会
- ⑤
- ⑥ 2017.02.23～24
- ⑦

- 8 ① 岡田 有香、中橋 恵子、橋口 具世、射延 菜穂美、中筋 幸司、中川 史絵、川野 知子、桑原 正篤
- ② 「糖尿病透析患者の下肢壊死に対し早期からNST介入し大切断を回避できた1例」
- ③ ポスター発表
- ④ 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会、
- ⑤
- ⑥ 2017.02.23～24

⑦ 【要旨】 下肢壊疽を発症した場合、感染管理を行い、可能な限り血行再建、同時に積極的な栄養管理を行わないと救肢・救命は難しいといわれている。本症例は、入院時よりNSTが介入し、多職種、他科との円滑な連携により大切断の回避ができた。

- 9 ① 春藤 和代  
② 「当院で発生したCD腸炎によるアウトブレイクの経験と今後の課題」  
③ 口演発表  
④ 第32回日本環境感染学会総会  
⑤  
⑥ 2017.02.24  
【要旨】 当院で、2015年3月、同年8月に計2回、クロストリジウム・ディフィシル関連腸炎のアウトブレイクが発生し、菌株の遺伝子解析をもとに、アウトブレイクを後方視的に振り返った。市中や他施設からのCDの持込みが増加していることから、下痢患者に対するアセスメントの再考が、アウトブレイク防止の鍵になると考えられる。
- 10 ① 中田 徹朗、大西 アイ子  
② 「当院におけるRapid Response System構築のための取り組み」  
③ ポスター発表  
④ 平成28年度 兵庫県看護協会阪神北支部 看護実践報告会  
⑤ 兵庫  
⑥ 2017.02.25  
⑦
- 11 ① 中田 徹朗、大西 アイ子  
② 「Rapid Response System導入後6ヶ月の現状と課題」  
③ 口演発表  
④ 日本医療マネジメント学会第11回兵庫支部学術集会  
⑤ 兵庫  
⑥ 2017.02.26  
⑦
- 12 ① 相馬 千穂、坂井 典子、赤木 寿子、加藤 晶子、後藤 真由美、唐仁原 小百合、奥野 恭子  
② 「監査で進化するPNS～問題点の発見と改善によるブラッシュアップ～」  
③ 示説発表  
④ 第4回PNS研究会  
⑤ 福井  
⑥ 2017.03.03  
⑦

- 13 ① 岡山 幸子  
② 「Changing roles of Palliative care units in Japan」  
③  
④ EAPC2017 15th World Congress of the European Association for Palliative Care  
⑤ Madrid Spain  
⑥ 2017.05.18～20  
⑦ 【要旨】日本の緩和ケア病棟の役割の変化について述べている。患者が安らぎをもってホームケアが受けられるように、ホームホスピスとして、ホームケアのサポートが重要である。
- 14 ① 武藤 教志  
② 「Mental Status Examination 指導者養成のための交流セミナー」  
③ 企画セミナー  
④ 第42回日本精神科看護学会学術集会  
⑤ 岡山  
⑥ 2017.06.16～18  
⑦
- 15 ① 武藤 教志  
② 「他科に誇れる精神科の専門技術 Mental Status Examinationの基礎講座」  
③ ワークショップ  
④ 第42回日本精神科看護学会学術集会  
⑤ 岡山  
⑥ 2017.06.16～18  
⑦
- 16 ① 岡山 幸子、日吉 理恵、二村 珠里、松田 良信、吉川 善人  
② 「日本医療機能評価機構副機能「緩和ケア病院」受審の取り組みについて」  
③ ポスター発表  
④ 第22回日本緩和医療学会学術集会  
⑤ 横浜  
⑥ 2017.06.23

- ⑦ 【要旨】 日本医療機能評価機構副機能「緩和ケア病院」受審の際に、緩和ケア病棟全員で取り組み、機能評価機構の項目に沿い、修正していく中で病棟内の質の向上につながった例を発表した
- 17 ① 松田 良信、吉川 善人、岡山 幸子、日吉 理恵、二村 珠里、大原 里実、橋詰 加奈、宮島 透、香坂 俊  
② 「メキシチレンの併用にてメサドンを安全に導入し、良好な鎮痛効果を得た1例」  
③ 口演発表  
④ 第22回日本緩和医療学会学術集会  
⑤ 横浜  
⑥ 2017.06.24  
⑦
- 18 ① 【共同研究】他施設6名 岡山幸子  
② 「進行がん患者に対するSpiPasを用いたスピリチュアルケアの有効性:前後比較2相試験」  
③ 口演発表  
④ 第22回日本緩和医療学会学術集会  
⑤ 横浜  
⑥ 2017.06.24  
⑦
- 19 ① 吉田 こずえ、藤森 令子、高瀬 直人  
② 「当院におけるがん患者指導管理料1に関わる取り組みと課題」  
③ ポスター発表  
④ 第22回日本緩和医療学会学術集会  
⑤ 横浜  
⑥ 2017.06.23～24  
⑦ 【要旨】過去1年間のがん患者指導管理料1に関わる取り組みの現状と課題を後方視的に分析した。306件介入、27%が繰り返し病状説明時にカウンセリング、24%はがん看護相談外来で継続支援が必要。病状説明時にカウンセリングは診療科に偏りがあり、患者のニーズに応えられる体制作りが課題が見出された。
- 20 ① 吉田 こずえ、藤森 令子、高瀬 直人  
② 「当院のDecision Makingをサポートするために繰り返し面接をした介入の現状」  
③ ワークショップ  
④ 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会



⑤ 神戸

⑥ 2017.07.29

【要旨】医師と看護師が共同で病状説明を実施後、3回以上看護相談を繰り返した症例の診療記録より、状況と支援内容を調査。61症例。

⑦ 「現実から目を背ける」「家族の情緒的な揺らぎが大きい」状況があり、情報整理、情緒的揺らぎに付き合う等の支援を実施。防衛反応を示す症例が多く、理解の促進ではなく精神的支援が優先されることが示唆された。

21 ① 藤森 令子、坂口 亜衣子、吉田 こずえ、近藤 万友美、高瀬 直人

② 「外来化学療法室におけるオキサリプラチンによる過敏性反応の発現状況と対応の検討」

③ 口演発表

④ 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会

⑤ 神戸

⑥ 2017.07.29

⑦ 【要旨】外来化学療法室にて過去4年間、オキサリプラチンによる過敏性反応の発症と対応を検討。31名に発症、発症時間中央値60分、投与回数中央値10回、再導入患者14名中13名は再導入後3回以内に発症。急変時対応の継続教育の必要性が示唆された。

22 ① 仲谷 みどり、本城 早織、瓜生田 雅代、岡山 幸子、吉川 善人、松田 良信

② 「遺族サロンへの看護師の取り組み」

③ ポスター発表

④ 第41回日本死の臨床研究会

⑤ 秋田

⑥ 2017.10.07～08

⑦ 【要旨】看護師はサロンの目的を理解し必要性も感じ、自身が癒される体験をしていることがわかったが、業務に支障が出ると感じる者もいた。リーダーによる業務調整やサロンの状況を伝達する場を設ける必要がある。

23 ① 本城 早織、瓜生田 雅代、仲谷 みどり、岡山 幸子、松田 良信、吉川 善人

② 「精神発達遅滞がある20歳代の終末期がん患者との関わり～症状マネジメントから振り返る～」

③ ポスター発表

④ 第41回日本死の臨床研究会

⑤ 秋田

⑥ 2017.10.07～08

⑦ 【要旨】精神発達遅滞がある右副咽頭間隙悪性腫瘍の若年終末期がん患者を受け持った。患者の表情や行動を観察したり、家族と密なコミュニケーションを行ない、症状マネジメントを行なった事例について報告する。

- 24 ① 瓜生田 雅代、本城 早織、仲谷 みどり、岡山 幸子、松田 良信、吉川 善人  
② 「密なケアを必要とした患者の看護」  
③ ポスター発表  
④ 第41回日本死の臨床研究会  
⑤ 秋田  
⑥ 2017.10.07～08  
⑦ 【要旨】 進行右乳癌、多発骨転移による難治性のがん疼痛が強い患者を受け持った。安楽の保持のため、手技の統一のカンファレンスを繰り返し、症状緩和が得られた事例について報告を行なった。
- 25 ① 松田 良信、吉川 善人、岡山 幸子、本城 早織、仲谷 みどり、瓜生田 雅代  
② 「緩和ケア病棟入棟前に急変した病状の受容困難な家族への対応」  
③ ポスター発表  
④ 第41回日本死の臨床研究会  
⑤ 秋田  
⑥ 2017.10.07～08  
⑦
- 26 ① 松田 良信、吉川 善人、岡山 幸子、日吉 理恵、二村 珠里、大原 里実、中野 美奈、持田 利江、沼野 尚美  
② 「緩和ケア病棟で主治医との会話を拒否した事例」  
③ ポスター発表  
④ 第30回日本サイコオンコロジー学会総会  
⑤ 品川  
⑥ 2017.10.14.15  
⑦
- 27 ① 岡山 幸子、永田 しのぶ、小野 由樹、土井 美奈子、松田 良信、吉川 善人、仲村 真理  
② 「緩和ケア病棟入院中にアカシジとせん妄を発症し、症状コントロールに難渋した40歳代乳がんの症例」  
③ ポスター発表  
④ 第30回日本サイコオンコロジー学会総会  
⑤ 品川  
⑥ 2017.10.14.15  
⑦ 【要旨】 緩和ケア病棟入院の40歳代乳がん患者さんが、アカシジとせん妄を発症し、症状コントロールに難渋したことについて許可を得て発表した。サイコオンコロジストの先生方とディスカッションを行なった。

- 28 ① 岡山 幸子
- ② 『精神腫瘍医、看護師、心理士は患者の何に注目して面談しているのか ～トータルペインを抱える患者への他職種アプローチ～』 「トータルペインを抱える患者へのアプローチ～看護師の立場から～」
- ③ セミナー5
- ④ 第30回日本サイコオンコロジー学会総会
- ⑤ 品川
- ⑥ 2017.10.14.15
- ⑦ 【要旨】 精神腫瘍医、看護師、心理士とのシンポジウムであり、各職種がトータルペインを抱える患者へのアプローチについて、何に注目しているのかを述べた。私は、看護師の立場から、患者との面談での傾聴のスキルなどケアについて述べた。
- 29 ① 武藤 教志
- ② 「他科に誇れる精神科の専門技術 Mental Status Examinationの基礎講座」
- ③ 一般演題Bワークショップ
- ④ 第24回日本精神科看護専門学術集会
- ⑤ 金沢
- ⑥ 2017.12.02
- ⑦
- 30 ① 武藤 教志
- ② 「Mental Status Examination指導者育成交流セミナー」
- ③ 一般演題Bワークショップ
- ④ 第24回日本精神科看護専門学術集会
- ⑤ 金沢
- ⑥ 2017.12.02
- ⑦